

研究・調査報告書

報告書番号	担当
180	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Separate and joint effects of alcohol and smoking on the risks of cirrhosis and gallbladder disease in middle-aged women. 中年女性における肝硬変と胆嚢疾患のリスクに及ぼすアルコール、喫煙の単独および併存での影響	
執筆者 Liu B, Balkwill A, Roddam A, Brown A, Beral V; Million Women Study Collaborators.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Am J Epidemiol. 2009 Jan 15;169(2):153-60. Epub 2008 Nov 25.	
キーワード 飲酒、胆嚢疾患、肝硬変、肝疾患、アルコール依存、前向き研究、喫煙	
要旨 目的・方法： アルコールと喫煙とが肝硬変と胆嚢疾患発症のリスクに及ぼす（単独および併存での）影響を英国 1,290,413 人の女性（平均年齢 56 歳、1996 年から 2001 年に参加）において前向きに研究した。	
結果： 平均追跡期間 6.1 年（1996 年～2005 年）で、肝硬変と胆嚢疾患との千人あたり発症率は 5 年のうちでそれぞれ 1.3 (n=2,105)、15 (n=23,989) であった。アルコール摂取量増加につれて肝硬変のリスクは上昇したが、胆嚢疾患のリスクは逆に減少した（両者ともトレンド p 値 < 0.0001）。週に 1-2 単位飲酒する女性に比べて週に 15 単位以上飲酒する女性の相対危険度は肝硬変で 4.32 (95%信頼区間 (CI) : 3.71、5.03)、胆嚢疾患では 0.59 (95%CI : 0.55、0.64) であった。喫煙はどちらのリスクも上昇させた(トレンド p 値は両者とも < 0.0001)。非喫煙者と比較して 1 日 20 本以上の現在喫煙者の相対危険度は肝硬変で 3.76 (95%CI : 3.25、4.34)、胆嚢疾患では 1.29 (95%CI : 1.22、1.37) であった。アルコールと喫煙との相互作用は肝硬変に対しては相乗的期待値以上であった（相互作用 P=0.02）が、胆嚢疾患ではそうではなかった（相互作用 P=0.4）。	
結論： 結果からは以下のことが示唆された。アルコールと喫煙とが及ぼす影響は肝硬変と胆嚢疾患とは異なっている。肝硬変に対しては、アルコールと喫煙とは単独でもリスクを増加させるが両者が併存しているときは特に有害である。胆嚢疾患に関しては、アルコールはリスクを低減する一方、喫煙ではリスクを軽度上昇させる。	